

1 社会・治安情勢

(1) テロ情勢等

イスラム原理主義等の国際テロの当国への浸透は確認されていないほか、これまでのところ当国国内にその温床となるような組織、細胞も存在していない。これらとは無関係の暴力的な集団も認められない。

また、日本人を標的とした営利目的の誘拐等に関する情報についても確認されていない。

(2) 一般治安・犯罪状況等

貧富の差の拡大が見られるほか、人口増加と都市部への農村人口流入といった状況が継続しており、社会は、度重なる計画停電や経済的な不安的要因・リスクが増大している。右に伴って、都市部を中心に治安情勢の悪化が懸念される。右にも拘わらず犯罪の発生は今のところ低く抑えられているが、窃盗、置き引き、ひったくり、スリ等の一般犯罪は目立つ。

(3) 社会情勢

一昨年来の干魃により水源が干上がり、電力供給に甚大な影響が出ている。ルサカ市内の停電は1日あたり12～15時間に達しており、人々の生活に重大な影響を及ぼしている。これらが特に貧しい階層の人々の不満の増大につながり、治安情勢にも悪影響が及ぶことが懸念される。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 在留邦人が多数居住し比較的安全とされているルサカ市においても車上荒らしなどが断続的に発生している。また、コンパウンド内では日中であってもスリや放火などが発生している。最近大使館へ報告されている事案では、被害者の使用人や自宅を警備している警備員が共謀し、留守になった被害者宅で窃盗を行う事案が多くなってきている。

(2) 邦人被害事案

11月中旬、中央州カブエにおいて、在留邦人宅に賊が侵入。パーグラバーの設置されている窓から複数回わたり侵入し、在留邦人の所持品を窃盗した。事件当時在留邦人は不在で、賊は近隣住民により犯行中に取り押さえられている。

(3) 邦人以外の被害事案

ア 10月6日、西部州カオマにて政治団体の男性が1名銃で殺害される事案が発生した。事件は政治団体が政治活動を行っていた時間帯に起きた。警察の発表によると死亡した男性の他にもけが人も出ている。

イ 12月6日、ルサカ市のマケニエリアにて中国人、インド人、ジンバブエ人などを狙った殺人事件が発生。当事案には銃器が使用され、殺害動機は職を解雇された者達の犯行であり、警察は同様の事案が発生しないようにパトロールを強化し、自国の僱事でも十分注意するように呼びかけている。

3 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

問題とされる情報に接していない。